



ま とく れい こう 磨徳励行

自ら考え
進んで行動し
学び続ける
『キラリと光る励徳っ子』



第 22 号
R5.10.6発行
文責 永田 功臣

こどもの詩コンクール特別賞受賞!

3日(火)に全校集会を行いました。その中で2年生の田村ゆずさんが「こどもの詩コンクール」で「坂村真民賞」という最高の賞を受賞したので、みんなに紹介しました。このコンクールには毎年たくさん応募し、学校賞もいただいておりますが、今年度は励徳小のよさをさらに認めていただいた気がします。励徳っ子が「キラリ」と輝いた瞬間です。ゆずさんだけでなく他の子も今後自信をもって、いろいろなことにチャレンジしてほしいと思います。 ↓ ほのほのとした詩で励徳小らしさが出てます



☆はらから☆

～キラリと光るために～

登校班の先輩から学ぶことも、たくさんあると思います。そして、**学んだ事を後輩につないでいく**。それが、励徳小の伝統や誇りになります。いわゆる「励徳プライド」です。まずは、先輩を見習って形から、そして自分のものにしていきましょう。「はらから」(仲間)っていいものですね。これからも大切にしてください。

「あいさつ」
なつきちゃんみたいに
元気いっぱい 大きい声で
あいさつをする
すてきなあいさつで
みんなを元気にしたい

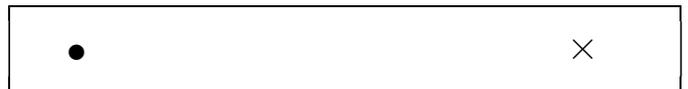


「あいさつ」
二年 杉本 陽麻

もっとサイエンス



今月の保健だより「目」の特集がありました。人の目は光をレンズでとらえ、奥のスクリーン(網膜)に投影し、その信号を脳に送ります。脳は色や形、遠近、大きさ等を二つの目で得た信号から解析していますが、中には実際とは違ったり、人によって見え方が違ったりします。おもしろいですね。少し前に、寄り目で見たり遠目で見たりすると、絵の中に違う立体が浮かび上がる「ステレオグラム」が話題になりました。今回はもう一つ「盲点」について考えてみましょう。



右目をつぶって、左目で×印を見ます。そして×印と目の距離を近づけていくと●印が消えるところがあります。これは、●印の光を投影する部分に光を受けないときに起こります。この部分を「盲点」といいます。見えているようで見えてないこともあるんですね。何とも不思議です。目のしくみをよく知り、目を大切にしていきましょう。

通知表配付

今年度第1回目の通知表を配付しました。前半の評価となります。よかった部分をしっかりとほめ、後半もさらに伸ばしていくように声かけをお願いします。



「お父さんのおなか」
お父さんのおなかは
ぼよんぼよん
気持ちいい
お父さんのおなかは
大きい
赤ちゃんがいるのかな
お父さんのおなかは
ポックポックをのせてみたい
お父さんのおなかは
わたしのあそびば
トランポリンみたい
お父さんのおなかは
わたしのまくら
ぐっすりねむれる
お父さんのおなかは
わたしのくた
大きなおなか
これからは
田村 ゆず

ちなみに、表彰式は9月16日(土)にKAB本社で行われ、10月14日(土)11:40から学校で収録された映像がKAB「家族のWA!」で放映される予定となっています。また、上の詩は玉名市の蓮華院誕生寺奥之院に詩碑として建立される予定となっています。改めて、賞の大きさを感じます。

集会でも紹介しましたが、「坂村真民」という方を調べてみると、^{さかむらしんみん} 東北の荒尾市に生まれて、一度朝鮮に渡られています。戦後、愛媛で国語の教員をしながら詩を作り、退職後も作り続けられ、2006年97歳で亡くなられるまでにたくさんの詩を残しておられます。「念ずれば花ひらく」や「二度とない人生だから」が代表作ですが、小学生にもわかるような詩が多く、「磨徳励行」「キラリと光る励徳っ子」に通じる詩もありました。一度本を手にとって読んでみてください。